



No.89

平成24年3月28日

社団法人日本山岳会富山支部

第4回日本山岳会富山支部山岳講演会を開催

2月17日(金)、富山県民会館701号室で支部主催の第4回山岳講演会を実施した。講師は立山カルデラ砂防博物館学芸課長であり、また富山支部会員の飯田肇会員。当日は大雪で交通機関が混乱する中、山岳愛好者や支部会員約50名が集まり、熱心に耳を傾けた。

谷村副支部長の司会で進められ、山田支部長の挨拶の後、「立山の雪、ヒマラヤの雪—雪の壁から氷河まで—」と題して講演が行われた。

参加者は日頃なじみの立山の雪であるが、ヒマラヤとの

比較や長年の調査データなどからこれまで知られていない姿を教えられた。また最近話題となっている氷河調査の話では日本初の氷河認定に期待を膨らますこととなった。(金尾誠一 記)



【講演内容】

○1980～90年代にネパールヒマラヤ氷河学術調査隊、カンチェンジュンガ登山隊、日本中国合同ナムチャバルワ登山隊に参加し、氷河の調査や気象を担当した。それらの経験をたどりながら、ヒマラヤの氷河の特徴や最近の変動を紹介。

○立山には様々なスケールの雪が存在する。

1年分の雪は雪の壁となり、数年～数十年分の雪は万年雪、数百年～数千年分の雪は氷河となっている。

立山・劔の雪の降り方は、ヒマラヤを凌駕するものがある。

○室堂平の積雪は最大約7m、雪の大谷は最大23m、平均15m。

立山の年降水量は雪3,000mm、雨3,000mmで合計6,000mmもあり、世界最大級である。

○立山カルデラ砂防博物館として、2009年

から御前沢、内蔵助沢、三の窓、小窓で、立山ガイドの協力のもと調査を開始・継続している。

*氷河とは、「重力によって長期間にわたり連続して流動する雪氷体（雪と氷の大きな塊）」（日本雪氷学会）と定義され、厚い氷体と流動があることがその条件。

○2011年に三の窓、小窓で、厚さ20～30m以上の氷体を確認するとともに、GPSで17～32cm（1か月）の流動を確認した。

この結果、氷河である可能性が高いと考えられる。観測結果を学術論文として発表して氷河認定を目指す。

○氷河とは、①気候変動の監視者 ②地球環境のタイムカプセル ③観光資源である以上

例会山行 大乘悟山から笹津山

【月日】平成24年3月3日（土）

【メンバー】木戸、中島（博）、山田、谷村、山岸、金尾（記）

数日来の晴天と雨で、家の周りの雪もようやく消えてしまったが、天湖森一带はまだ一面雪に覆われていた。空は曇っていたが、上から落ちてくる心配もなく、風もない穏やかな日である。8時40分さっそくかんじきを履いてゆっくりと歩き出す。今日はこの地近くにお住まいの谷村さんが先導とあって、安心して後に続く。

人の足跡に交じって、カモシカやウサギ、サル、小熊の足跡にもお目にかかる。今年は例年になく大きな雪の年であったが、動物たちにとっても厳しい日々であったことだろう。無事にこの冬を越せたのだろうか。

歩き始めてから約2時間で、大乘悟山590mに着く。谷村さんは「ここは視界が良ければ立山連峰がきれいに眺められる所なのだが」と少し残念そうに説明される。また、足下に見える工場は戦前、軍需物資を作っていたところだったとか、国道41号線の西は旧宅地で、東は新住地だといった地域の歴史の一端も聞かしていただいた。鷹の渡りで知られるお鷹山は、手前のカンナオ山の陰に隠れて見えなかった。山頂の平坦地には、テント大の穴が掘ってあつ

たが、泊まって星空でも眺めた人がいたのだろうか。

ここから100m程いったん下って鞍部に降りる。途中、姿の良い嶺上の松が、所々で雪の重みに耐え兼ねて太い枝が引き裂かれていた。今年の雪の重さのせいだろう。

登りかえして最初の反射板は通り過ぎ、二つ目の反射板のあるところが笹津山532mであった。少し霞がかかっていたが神通川の流れ、富山平野が見渡せた。カドミニウム汚染のことやその復元、今年4月には資料館が開設されることなど弁当を食べながら話が弾んだ。

帰りは林道から谷沿いに、自在なコースとりで、13時40分に登山口まで戻った。その近くでは、数メートルを越す屋根雪を下しておられる方の姿も目にした。待ち遠しい春の日和であるが、まだまだ里山は「春遠し」を感じさせる一日であった。



五支部スキー山行（猪臥山）

【期日】平成24年2月25日(土)～26日(日) 【場所】猪臥山(1519.1m) 岐阜県飛騨市・高山市

【参加者】富山支部：山田（記）、近藤、村上、川田、永山、河村、島津 7名

京都支部 8名、福井支部 4名、関西支部 5名、岐阜支部 9名 計 33名

【宿泊】ホテル季古里（飛騨市古川町黒内）【懇親会】早田岐阜支部長挨拶、宮本福井支部長乾杯

【コースタイム】8:38 出発～9:55 二股～10:30 稜線～11:15 山の神の社～11:30 猪臥山頂上～12:20 小鳥峠～13:15 畦畑～13:39 解散式（ホテル前）



富山支部は第3班（横田 CL, 宮地 SL）に。カラマツの疎林の開けた彦谷をつめる。曇り。

二股で小休止、右の沢に入るとガリガリに凍った上に新雪が薄くのった急な雪面に苦勞する。稜線に出てから樹氷の広い尾根を進む。山の神の社前で記念撮影後すぐ先の猪臥山頂へ。展望はあまりきかない。標柱の横でシールをはずし、極上のパウダーを滑り林道終点の駐車場へ。これより林道滑降が小鳥（おどり）峠まで続いた。全員ここで昼食。凍ったトレースにスキーが引っ掛かりスピードコントロールに足が痛くなる。畦畑集落のはずれでスキーをぬぎ迎えのバスを待った。

親睦会総会および例会山行（大品山）

【月日】平成24年1月21日(土)～22日(日)

【参加者】木戸、石浦、山田、近藤、村上、川田、谷村、永山、山岸、本郷、島津、中島、辻
13名

【コースタイム】9:00 ゴンドラ終点～9:50 瀬戸蔵山～11:15 大品山頂 12:10～12:50 調整池～13:20 粟巣野スキー場

土曜日午後4時過ぎ立山国際ホテル401号室に全員が顔を揃え、最初に役員会を開いて山岳講演会等について協議。引き続いて親睦会の総会、近藤会長の挨拶と進行で会計報告等。23年の親睦会物故者は高柳、中俣氏で現会員総数は23名である。当日辻会員が入会。終了後その場で谷村副支部長差し入れの缶ビールで乾杯、6時から宴会場で談笑した。

翌日の例会山行は山スキーの近藤、島津、山田、ワカンの木戸、谷村、中島の6名で大品山を目指した。ゴンドラで頂上駅まで上がり準備、立派なトレースがあるも途中からシールに雪が付き下駄のようになり苦勞する。大品山頂で

昼食。谷村さんは全く元気で、中島さんも10分遅れで到着。昼食後ワカン組はゴンドラ駅に戻り、スキー組は粟巣野に向け滑降。途中休憩中の大山町山岳会の遭対訓練の面々(永山氏も)を追い越し、重い雪に苦勞しながら1時間ちよっとで粟巣野スキー場へ下山。駐車場で合流した後、グランドサンピア立山の温泉につかって解散した。(山田信明 記)



晩餐会記念山行 箱根駒ヶ岳～神山 1438m



晴天、これほどにどの角度から眺めても、くっきりと浮かび聳え立つ日本一の山「富士山」をみる事ができた素晴らしい山行でした。

12月4日(日)、現地参加者もあり、総勢99名での登山。品川駅7時集合、20分遅れでバスは箱根園を目指す。

富山支部からは、本郷さんと菊崎の参加で、本郷さんには、大変なご迷惑をお掛けしてしまいました。バスが走り始めて25分、雄大な富士山が遠くに顔を出し始める。「今日は雲一つない、何と私は幸せなのだろう」と心も浮き浮き状態です。9時21分、箱根園に到着。9時30分ロープウェイに乗り、あたりの景色をみると黄葉もまばらに、やがて訪れる寒く厳しい冬に木々たちは備えているかのように、それでも尚且つ自然の美しさを保っている。駒ヶ岳山頂付近にじゅうたんを敷きつめたように美しい姿を見せ、笹の高さも1m以上あるとのこと。上からみると、そんなに伸びているとは見られない駒ヶ岳の幻想的な一面を見ることができました。

駒ヶ岳山頂神社で参加者全員の記念撮影を撮る。私は靴底が剥がれるアクシデントがあったので、特に念入りにお参りする。恥ずかしいことながら靴底が剥がれ、踵から順に爪先と、両方の靴にアクシデントが起き、そのたびに本郷さんの足を止めることになり、しっかりとテーピングを施していただきました。

駒ヶ岳から神山山頂・大涌谷駐車場下山までは、階段が多いのと、地面が濡れて滑りやすく浮石も多かったので特に足元注意でした。本郷さんには後方から注意の声かけをしていただくなどサポートして頂き、本当に感謝、感謝でした。

神山頂上を目指し11時40分、予定時間より20分ほど早く到着。しっかりと三角点にタッチし、頂上を後にする。冠ヶ岳と大涌谷の分岐、更に大涌谷駐車場を目指し、富士山の美しい姿を目に焼き付けながら13時到着。此处でゆっくり昼食タイム。売店で、私もあやかろうと思い「延命長寿の大涌谷の黒玉子」「一つで7年延命長寿」を求めました。

14時大涌谷を後にして帰路に着きました。バスの中から見ると美しく輝き聳え立つ東京タワー、去年見たライトアップとは心なしか少し控えめかな・・・。

身をもって体験した事はしっかりと頭に入れ、これにめげず次回の山行に備えるつもりです。(菊崎令子 記)

第11回5支部合同懇親山行

【月日】平成23年11月20日(日) 【コース】横蔵寺～妙法ヶ岳～華厳寺(岐阜県揖斐川町)

【コースタイム】松本屋 8:00—登山口 8:42—9:33 熊谷直実の墓—562m ピーク 10:05—606m 峰 10:26— 妙法ヶ岳 11:55—奥の院 12:25—華厳寺 13:20

散策コースに回る石浦、金尾両氏の見送りを受けて、山行コースの我々（近藤、本郷、山岸、山田）は宿舎「松本屋」のマイクロバスに乗って出発。上神原の駐車場でバスを降りる。紅葉まつりイベントのため集落の中は車進入禁止になっていた。横蔵寺は801年創建の天台宗の名刹、「美濃の正倉院」と呼ばれるほどの重要文化財やミイラで有名らしいがわれわれは見学することなく境内を素通りして登山口に向かった。今回は班分けもなくぞろぞろと自由に歩くことになる。いこいの森遊歩道をジグザグに登って高度をかせいでいく。仁王門跡や稚児の岩などを過ぎ、やがて熊谷直実の墓に到着。源平合戦のあと修行僧となって諸国行脚の末にこの地で亡くなったとある。しばらく進むと暗い樹林の中に本堂跡があったりして史跡が多く先月の英彦山の山中を歩いたときのことを思い出させる。舗装した林道に出てまたすぐ東海自然歩道にもどると、最初の三角点606.6mに到着。結構アップダウンのある長いコースを延々と歩いて昼頃によく第二の三角点である妙法ヶ岳666.9mに到着した。ル

ート中唯一山名のあるピークだが見晴らしもきかず、また雨が降りだしたので、早々に出発。ここから先は樹林の中のつづら折りの道を華厳寺まで標高差500m位下ることになる。送電線の下くらいまで下ったところにひっそりとした奥ノ院があり、ここでようやく昼食となる。合羽をぬいだり着たり天気だが本降りにならず助かった。華厳寺は1200年の歴史をもつ西国三十三ヶ所巡りの満願霊場の寺。巡礼者が納めた笈摺が沢山積み上げられた笈摺堂や、本堂の「谷汲山」の大提灯などに度肝を抜かれながらお参りをすませ、紅葉の中多くの参拝客でにぎわう参道を歩いて門前町の宿舎松本屋にゴールした。早田岐阜支部長の挨拶で解散、来年の福井支部での再会を約して帰途についた。（山田信明 記）



12月例会 講演と忘年会

【参加者】木戸、中島（博）、高塚、石浦、山田、有澤、近藤、森、川田、谷村、金尾、河村、佐藤、山岸、本郷、島津

12月9日（金）「とやま市民交流館学習室1」において、例会講演を実施した。講師は石浦邦夫顧問、内容は「播隆上人」について。講演では、乞食僧の系譜とそれに連なる播隆上人の生涯、特にポイントとなった笠ヶ岳再興、ゆかりの寺院や修業地、今も生きている播隆上人の教えを大切にしている人々などについて語っていただいた。

また、最近の支部行事として「播隆上人ゆかりの地をたどる企画」を集中的に実施したが、それらの内容についてもスライドを使って紹介された。播隆上人に対しての色々な視点からの話は参考になることが多く、そして支部の今後の活動に対しても多くの示唆をいただいたように感じた。

講演後、場所を「リコ・モンテ」に移し恒例の忘年会を開催し、一年を振り返りながら楽しい歓談の時間を過ごした。（金尾誠一 記）

【参考】播隆上人ゆかりの地 訪問一覧表

年月日	訪問箇所	内容（所蔵物など）	住所	備考（住職）
H22.9.18	上宝ふるさと歴史館	一里塚石仏など	高山市上宝町本郷 582-12	
H22.9.18	杓子の岩屋	【90 日間参籠修業地】	上宝町岩井戸地内	
H22.9.18	高原山本覚寺	迦多賀嶽再興記など	高山市上宝町本郷 1425	(石井玄太)
H22.9.19	笠ヶ岳	【再興の山】		
H23.7.2	揖斐川町歴史民俗資料館	一心寺所蔵物管理	揖斐川町上南方 901	
H23.7.2	播隆院一心寺	【播隆開山寺院】、播隆墓、(托鉢椀、錫杖頭、大鉢、法衣他は資料館)	揖斐川町三輪 2924-1-2	0
H23.7.3	伊吹山	【修業の山】		
H23.7.3	伊吹山文化資料館	伊吹山中の山岳寺院資料など	米原市春照 77	
H23.7.20	女鳥羽山道樹院玄向寺	名号軸、法衣など	松本市大村 681	(荻須真教)
H23.7.20	周岳山法蔵寺	中田又重像	豊科町新田 5716	(大沢法我)
H23.7.21	坊主の岩屋	【修業地】	槍沢上部	
H23.7.22	槍ヶ岳	【開山の山】		
H23.11.19	龍興山祐泉寺	墓碑、護持物など	美濃加茂市太田本町 2-3	(龍山大耕)
H23.11.19	林家住宅	【終焉地】、国重要文化財	美濃加茂市太田本町 3-3	
H23.11.20	播隆山正道院	【播隆開山寺院 毎月 2 1 日播隆講】、播隆墓	岐阜市柳沢 9	(竹中純瑜)

内容の詳細などについてのお問い合わせは事務局までご連絡下さい。

ご案内

月日	内容	場所など	備考
4/13 (金)	平成 2 4 年度支部総会	18:30 より 富山電気ビル	懇親会費 6,000 円 申込締切り 4/6
5/26-27 (土・日)	第 12 回五支部合同懇親山行 (福井支部主催)	5/26 泰澄の杜 (宿泊) 5/27 越知山	参加費 12,000 円 申込締切り 4/20
4/18 (金)	例会山行 美女平周辺 (予定)		

申込は事務局までお願いいたします。

会員異動

1 2 月退会 津田朋二(11733)

(編集後記) 東日本大震災の発生から一年が過ぎました。24 年度は東北地方への山行を計画中です。こぞって東北へ出掛けましょう。皆さんの参加をお待ちします。(金尾)

(社) 日本山岳会富山支部 会報第 8 9 号
発行 (社) 日本山岳会富山支部支部長
山田信明

事務局

〒931-8451 富山市銀嶺町 10-16 金尾誠一
電話 076-438-2716 090-2036-5853

Email s-kanao@pf.ctt.ne.jp